

1. 第1回建設検討部会

1.1 ワークショップの実施

1.1.1 ワークショップの目標

統合小学校に向けて、「とくに重視したい整備コンセプト」、「そのために準備しておくもの、あると良いもの」を考えることを目標とした。

1.1.2 実施内容

STEP 1：整備コンセプトの中でとくに重要と考えるものを2つ以上選択

STEP 2：「選択理由」「統合小学校で育ってほしい子どもの姿」を考える

STEP 3：「実現するための方法や取組み」を考え、グループのアイデアをまとめる

1.1.3 実施結果

(1) 重要と考える整備コンセプト・育ってほしい子どもの姿

整備コンセプト	選択理由	統合小学校で育ってほしい子どもの姿
① 主体的・対話的で深い学びを可能とし、多様な学習形態に柔軟に対応できる空間	・ 自分で考える ・ 考えを持って行動できる ・ 色々な人から学べる ・ 興味を持ったものを伸ばせる ・ 子どもたちのつながり ・ 現在の授業スタイル ・ 一斉→ペア、グループ、個の主体性、学び合い ・ 保障できる場の設定、多目的スペース、壁3面のホワイトボード等 ・ 探究的な学習と個別最適な学びの実現には、柔軟な対応ができる物理的空間、特にゆとりある空間が必要と考えるため ・ 児童数の変化 ・ 学習形態に合わせた可変性（個別学習、グループ、一斉授業） ・ 子ども達が主体的に学習、行動する力をつけていく事は大切だと思う ・ 又、それぞれ個人、学年にあわせ柔軟に対応される必要性を感じるから	・ 自分で選択できる ・ 意思がもてる ・ 友達どうしで考える ・ 一人ひとりの子どもが自分の考えを持つとともに、他者の意見（考え）を柔軟に取り入れ、自分の考えを確立できる子ども ・ 興味、関心をもったことを子どもがすぐに自分から調べる ・ のびのび、一定の秩序の中に創造的、探究的、自発的、学び ・ 子ども達自身が主体となって考え、行動する力を身につけ、まわりを放っておかない対話からできるかわり、きずなを大切に育んでいってほしい
② ICT等の新たな学びの環境、一人ひとりの習熟度に合わせて最適化された学習環境	・ 地域との連携 ・ 地域一帯で社会資源を利用して地域交流もできる ・ 自己肯定感を得られることで、「行ってもいいんだ」⇒「学ぶって楽しい」⇒「もっと学びたい」と成る	・ 地域の大人に相談 ・ 話になる ・ 顔見知りできる ・ 自己肯定感を持つ ・ ここにいてもいいという受容感を感じる

	- 長が促される⇒「明日も行きたい」感情があふれる - 教える側のストレス、負担軽減にもつながる？	他己認知、許容力の向上、学ぶことが楽しいと思える
③ 児童の笑顔と元気があふれ、心身ともに健康的に過ごせる生活空間	- 自己肯定感が低いと言われているが、学校が有りのままの自分でいられる居場所になってほしいと思う - 学年関係なく、仲良く交流できる場をつくり、交流の幅を広げ、楽しく、勉強に限らず社会性もそだっていけると良い	- 自分のことをいいと思えて、自分の未来を切り開いていける子ども - 社会性の向上
④ 多気町の豊かな自然を五感で感じられる学習空間	なし	なし
⑤ 地域コミュニティと児童、教職員が連携・協働する交流拠点	なし	なし
⑥ 地域住民から親しまれ、地域全体で児童を育てる環境	子どもたちの育ちを家庭と学校だけにまかせるのではなく、地域全体で見守っていくことで安心できると思うから	多気町のことを好きになってほしい
⑦ 施設開放時の利便性、児童の安全性を両立する、地域の活動拠点	- 地域の活性化 - 地域ぐるみで児童を育てることの必要性 - 学校、地域との協働 「気軽に足を運んでいただける学校」と「児童の安全性」の両立 - 行事などの時の安全性 - 交通問題 - 不審者対応の設備（マンション、ユニクロ）	- 多気町（多気地域）の方々に愛され、地域の中で育つ子ども - 交通事故等のない道路整備 - 安心、保護者も安心
⑧ 児童が安全・快適に過ごせる環境	- 子どもの行動 - 現在の環境 - 自然災害 - 暑さ、防犯等のきびしい状況 - 熱中症、ウイルス - 通学路などの安全性 - 開放的な環境の中で新たに自分の好きなことを見つけ、快適に過ごせると良い - 様々な特性を持った子ども達がストレスを感じずに居心地の良さを感じて生活できる環境が、子ども達の学習意欲の向上とすこやかな人間関係の構築につながるため	- 子どもたちの思い、願い - ストレスなくすごせる - 交通事故等のない道路整備 - 安心して笑顔が常にあふれた子ども達が友人関係を広げていく - 保護者の携帯電話に連絡 - 安全、安心な環境の中で、伸々と学習し、身体を動かし、6年間の中で仲間を大切にし、つながっていく力を育んでいってほしい

	・ バス、登校、下校、安全、出欠（熱中症、事故） ・ その他色々考えられますが、まずは子ども達が安全に学習できる場であってほしい ・ 様々な犯罪にまきこまれる事例も聞きます ・ 自分達で身を守ることも必要ですが、大人の力によって守られ、日々快くすごして成長していったほしいと思う	
⑨ユニバーサルデザインの導入により、誰もが過ごしやすい環境	・ なし	・ なし
⑩頻発化・激甚化する自然災害に強く、地域住民にとっても安全・安心な拠点施設	・ なし	・ なし
⑪環境教育の場として、環境配慮技術の効果を感じられる施設	・ なし	・ なし
⑫学びの変化や児童数の増減等にフレキシブルに対応できる、長く使いやすい施設	・ そのときそのときにより子どもたちの姿は毎年変わる ・ それに対応できるようにする ・ 卒業した学校が（学校の形態でなくなっても）長く存在してくれると過去の思い出、学びの証が後生まで自身の内で生き続ける⇒地域愛着につながる	・ 必要のない我慢をしなくてよい ・ 地域愛着（自慢したくなる）
⑬再生可能エネルギーや省エネルギー技術を積極的に導入した施設	・ なし	・ なし

(2) 実現するための方法

整備コンセプト	実現方法・参考となる取組み
①主体的・対話的で深い学びを可能とし、多様な学習形態	・ 子ども達が不思議、知りたいと思ったときにすぐ調べたりためしたり、又、グループ、そこにいる人たちと話をかわせる空間をつくる ・ 閉ざされた室内ではなくて、オープン的な教室、部屋を出たところに居場所がつかれる空間をつくる

に柔軟に対応できる空間	
②ICT 等の新たな学びの環境、一人ひとりの習熟度に合わせて最適化された学習環境	・ 別室や個室ではなく、オープンまたはセミオープンな学習コーナーを設ける ・ 家のようにくつろげる空間(デン) ・ デジタル黒板、遠隔地とシームレスにつながり、出前授業、意見交換、相談できるデバイス
③児童の笑顔と元気があふれ、心身ともに健康的に過ごせる生活空間	・ ムダな空間を大事にする ・ ギャラリー ・ 町内芸術家 ・ 本物を知るスペース ・ 地域交流ルーム ・ 体験活動 ・ 屋内に子供たちが集まれる場(図書館、屋内遊具、リラックスルーム)
④多気町の豊かな自然を五感で感じられる学習空間	・ 多気町のよいところを身近に感じられる ・ 旧小学校区の歴史の交流
⑤地域コミュニティと児童、教職員が連携・協働する交流拠点	・ 地域の人が講師 ・ 顔の見える関係で安心感 ・ 現在の CS、地域とのつながりを大切にする
⑤～⑧	・ 地域の人が、子ども達と共にすごせる、活動できる空間の設備整備 ・ 地域特性(4ヶ所地域)がそれぞれ生かせる場 ・ 安全を重視
⑥地域住民から親しまれ、地域全体で児童を育てる環境	・ 地域の人と日常的に交流できる ・ 地元企業 ・ 行事を充実する ・ 運動会
⑦施設開放時の利便性、児童の安全性を両立する、地域の活動拠点	・ 地域交流スペース ・ 安全性、セキュリティ ・ 地域の方が気軽に学校に来ることができる場の設定(空間、催し物)」と「子どもたちの学習空間」の両立 ・ セキュリティの強化、出入口をしぼる
⑦・⑧	・ 今の子どもたちの学校生活の状況を把握 ・ 各校で対応に悩んでいる課題を解決するための環境にするには？

	・ 防犯対策、セキュリティ ・ 登校したら QR コードかざす
⑧ 児童が安全・快適に過ごせる環境	・ 駐在の方 ・ トイレの数、水道の数、更衣室、廊下ベンチ、中庭空間、開放的な図書スペース
⑨ ユニバーサルデザインの導入により、誰もが過ごしやすい環境	・ なし
⑩ 頻発化・激甚化する自然災害に強く、地域住民にとっても安全・安心な拠点施設	・ なし
⑪ 環境教育の場として、環境配慮技術の効果が感じられる施設	・ なし
⑫ 学びの変化や児童数の増減等に対応できる、長く使いやすい施設	・ 用途変更の可能性がある施設機能がある程度は想定しておく ・ 単調過ぎない程度に効率の良い平面、断面計画とする ・ 可動間仕切りで教室つくる
⑬ 再生可能エネルギーや省エネルギー技術を積極的に導入した施設	・ なし
(未記入)	・ 旧小学校区のれきしなどの交流 ・ 地域交流ルームなどの準備
(未記入)	・ セキュリティ、マンション、ユニクロ、ふきぬけ、気持ちいいけどこわい ・ 塾(入退)⇒保護者連絡 ・ ふれあい広場、社会性 ・ パーテーション、可変性、黒板じゃなくてホワイトボード

2. 第2回建設検討部会

2.1 ワークショップの実施

2.1.1 ワークショップの目標

統合小学校に向けて、「重点にしたい整備コンセプトを実現するための具体的な施設・設備面のアイデア」を考えることを目標とした。

2.1.2 実施内容

STEP 1：整備コンセプトを「実現するための具体的な施設、設備」、「期待する利用方法」を考える

STEP 2：コスト面・即効性の2つの視点で意見を整理

STEP 3：グループごとに考えを発表

STEP 4：発表を聞いて自分の考え（感想＋新たなアイデア）をまとめる

2.1.3 実施結果

(1) Aグループ

テーマ：

①主体的・対話的で 深い学びを可能とし、多様な学習形態に柔軟に対応できる空間

1) 最終成果

委員	実現のための具体的な施設、設備	期待する利用方法
委員①	可変性のルーム、パーテーション	授業形態、人数によって変化できる 個別、グループ、全体
	図書室の充実	調査学習、読書習慣
	ICT、ネットワーク(内外)、バッテリー	セキュリティ、個人情報、いつでも調べられる
	どこでもスクリーン、投影機、ホワイトボード、大型モニター	どこでも発表できる
委員②	オープンスペース	他学年交流、外部講師用
	交流スペース	地域住民、他学校との交流
	農作物、工業用の体験スペース	地元農家、企業の体験の場
	図書に触れることができるスペース	デジタルから離れる
	子どもの得意なもの展示スペース	
委員③	オープン教室	四方閉じられた空間でなく、気持ちも落ち着き、開放感を感じることから考えのしびりがなくなる
	図書スペース	今までのような箱型空間で仕切られた施設の端になるものでなく、中心スペース的におかれいつでも利用でき、調べたいときに自由に手に取れることで学びの面白さが実感できる
		複数の図書館司書の方が常に見守り、一人ひとり困っていれば声をかけてもらえる
	癒しのスペース	広い廊下、中庭など異学年のふれあいがスムーズにおこなわれ、いつでも

		人の顔が見れる。また、クールダウンでき、落ち着ける場をつくることで、一人ひとりを大切にしたい学校スペースとなるのではないかな
		なかなか集団に入っていけない子に寄り添える教員、補助員がいて、何かよりどころを作ってくれる場所
	草花の栽培	飼育物や何かの展示室などを利用して
委員④	廊下モニター、ホワイトボード、机、イス(ベンチやソファ)	交流(同学年でも他学年でも)
	個室スペース、パーティション	対人関係不安、不登校傾向の子が安心して学べる
	共有データフォルダ感想、アイデア(目安箱等)改善案、感謝、発信が苦手な子どもへの配慮	データの共有から他者を知り、受け入れられる
		インターネットではなく、自分が所属する小学校空間の考え、アイデアを学ぶ(匿名にできる)
	個人データフォルダ	子どもと教師の交流
	文化展示	創造、交流、発展

2) 個人意見

a) グループ内からの意見

委員	発表を聞いてのメモ
委員①	ICTの充実、セキュリティ、どこでもタブレット、不登校対応、ネットワークの構築 オープンスペース、共有スペース、図書スペース、展示スペース、交流スペース、ゆとりスペース 可変性の教室、授業形態、個別学習、グループ学習 個々の発達段階や特性に合わせて参加しやすい施設
委員②	多様なスペース 個別パーティション、共有スペース、ホワイトボード、可変性ルーム、図書、展示、壁がないスペースづくり ICT タブレット、ネットワーク上での交流、データ、廊下を使ったスペース、心のゆとりスペース、職員側の個別スペース
委員③	スペースが可変的 オープンなスペース 中庭、廊下が広い⇒そこから図書スペースにつながる設計 展示スペース 地域の人、多気町の職業、工場関係、パネル等らぐき ICT ネットワーク(セキュリティも問題だが)教師と子どものつながり、仲間に入っていけない クールダウンしたい子のスペース、各教室の前にも図書等手に取りやすい

委員④	keyword "スペース" オープン教室 中央に図書スペース(落書き、ホワイトボード、モニター等)⇒交流の場 現実⇒展示、農工業 ネットワーク上⇒データフォルダ共有 & 個人 セキュリティ、ICT 電源 可変型 集団、個別に柔軟に対応 教員スペース【女性の体調配慮】
-----	--

b) 他グループからの意見

委員	発表を聞いてのメモ
委員⑤	作業スペース 他の用途で重なることが多い 同学年、異学年の地域スペース 国際交流スペース(ALT)(外国籍) 人との関係を作る場所 施設、学びたい 一緒に作業する地域の人に活用できる場
委員⑥	スペース オープンスペース、可変的スペース、図書スペース、展示、工業、農業、交流、教員のスペース ICT ネットワーク上のスペース 学校に行けない子どもそのスペースに登校するようなことができるのではないかと考えた
委員⑦	スペース(図書、展示、落書き)、ネットワークスペース、先生のスペース 広いスペース(各種)が必要 スペース 場所、心のスペース
委員⑧	スペース 可変、様々な子どもたちに個別対応、教員のスペース 子どもの人数 一人ひとりが抱える問題に対応できるよう大小様々なスペースがあると良い ICTに対応できるモニター、黒板、チョーク タッチペン
委員⑨	オープンな空間、クローズドな空間を両立させる 図書室の有効活用

委員⑩	オープン教室から出たスペースに図書、落ち着きたいスペース ICT 活用(セキュリティ守られている)、展示スペース、ネットワーク上のスペース オープンスペース、クローズスペースどちらも必要 様々な展示スペースで、子どもたちの新たな学びや好きが見つかるかも
委員⑪	個別、展示 個別スペースの必要性 ICT 活用、ネットワーク これからの子どもたちには、ICT やネットワーク等のデジタルへの対応力必要
委員⑫	スペースの配置は良い ネットについてはいじめになることがある

(2) B グループ

テーマ：

- ⑤地域コミュニティと児童、教職員が連携・協働する交流地点
- ⑥地域住民から親しまれ、地域全体で児童を育てる環境
- ⑦施設開放時の利便性、児童の安全性を両立する、地域の活動拠点

1) 最終成果

委員	実現のための具体的な施設、設備	期待する利用方法
委員⑤	児童が学年を超え交流できるスペース	高学年(2 クラス)が低学年(2 クラス)に先生として教えることを通して学べる
	地域の代表者(CS に関する人)が集える場	CS の会議室地域、講師控室、ボランティアの集える場
	地域を知れる展示スペース	地域で大切にしてきた文化、歴史のあるもの 農業、産業に関連したものから常に学べる工夫した展示
委員⑥	地域にも開放された図書室(静かにしなくていい)	本を通して子ども同士、地域の人と交流する
	町の芸術に触れるギャラリースペース	身近に地元のアートに触れることができる
	地元企業や団体の出展コーナー	地元企業等を知って仕事体験など
	町の歴史的資料展示スペース	町の歴史を知る
委員⑦	保健室、相談室の充実(生徒の心)	
	地域の人たちとの交流スペース	
	公民館	
	国際化に対する施設(外国語の対応)	
委員⑧	花壇、畑、田等の作物を作る環境	地域の人たちが常時活動できるスペース
	作業スペース	
	多気町に関する資料館	
	草花の栽培	

2) 個人意見

a) グループ内からの意見

委員	発表を聞いてのメモ
委員⑤	地域スペース(常時)＝展示スペース 地域の人いつでも集まる 地域的なこと協力(町) 出店展示コーナー、地元企業、団体が直接説明 花、野菜づくりスペースを近く(校庭) 地域の人に来てくれる 図書室の開放、本を通じた交流
委員⑥	地域の人と交流できる、地域の人に来てやすい、歴史(旧4校区)展示、アート 国際交流(ALTの部屋)、花、野菜、米作り保健室相談室 ALTの部屋あるといい、セキュリティの問題、畑(通用口)
委員⑦	地域と子ども達のスペース(地域の人に来てやすい、地区別、歴史文化、展示) 国際化に対応(外国語が自由に対応できる設備) 図書室、地域の人たちが利用 相談室、保健室の充実 人との交流 セキュリティとの問題
委員⑧	まず地域の人に学校に来てもらうこと、そして一緒に作業できる場があること セキュリティ

b) 他グループからの意見

委員	発表を聞いてのメモ
委員④	地域スペース 子どもと交流&地域住民が集える⇒協力 展示スペース 歴史、文化を伝える、QRコード、子どもと地域、地域と教員の交流 図書室 体育館などではなく、専用のスペースが必要 国際交流の場にも活用、地域の方も図書館を活用・交流 校庭に花壇、畑 校内で植物を育てる(外へ出ていくだけでなく)人との関係づくり 地域の生きがい 保健室・相談室 地域の方にも相談できる

委員②	地域と子どもたちがどう関わるか？ 地域の人のスペース 歴史や文化などの展示スペース、地域交流の場 説明は QR コード等使用 地域の人の集う場、ギャラリー、国際交流 ALT の部屋 地域の外国人 地域の人が使え図書館、保健室・相談室の充実地域の人が入ってきやすいスペース プールは民間 交流・ゾーンをまとめて作業が一緒にできる
委員③	地域と子どもがいかに関わっていけるか 地域の人のスペース来やすい場所 歴史(地域の)、文化の展示されている場 そこに地域の人に来て話ができる、説明できる そこに QR コードがあって、iPad で調べられる 地域のボランティアの方が集える場 地域の方のアーティストのギャラリー、展示スペース 国際交流 部屋があってそこに行けばすぐ交流できる 常に文化を知ることができる。 図書室 地域の方にも開放して子どもに関わってもらえる 相談室 地域の方にも開放して子どもに関わってもらえる 作物等作る場 運動場の一部にあると目で見て世話の大切さがわかる 交流ゾーンを作る(セキュリティの部分で心配もある) そこに集める、まとめる 地域のボランティア、地域のスペース、畑スペース 一緒に作業ができる
委員⑨	地域と子どもが集える場 来やすい 歴史、地域を展示するスペース 国際ルーム、面白い発想、オールイングリッシュの部屋
委員⑩	地域スペース、展示スペース 子どもたちがいかに地域の人と関わるか、地域の人に来てやすい環境 各地域の歴史展示スペース 歴史を伝えられる人、地域のボランティアの方々が集まれる場所 図書も地域の人にも開放、保健室、相談室の充実 先生のみに限らずいつでも大人に相談できる場、環境があったらいいと思う

委員⑪	地域スペース 地域との交流、4 学校地域、QR コードの活用、多気町資料 保健室の充実 国際交流スペース
委員⑫	地域との交流と各地での歴史交流、海外交流、校内の圃場

(3) C グループ

テーマ：

⑧児童が安全・快適に過ごせる環境

1) 最終成果

委員	実現のための具体的な施設、設備	期待する利用方法
委員⑨	オープンな空間、各学年毎（学年部毎）の多目的スペース	グループでの交流、異学年間交流
	グループワークスペース（ホワイトボード）、クローズドな空間（相談室・クールダウンスペース）	集中する、気持ちを落ち着かせる
	図書までの導線スムーズに	集中する 気持ちを落ち着かせる
委員⑩	体育館エアコン設置	夏場でも安心して身体を動かせる環境
	クールダウンできる小部屋	自分で気持ちを切り替えられる環境
	屋内、外遊具の設置	子どもに必要な身体づくりを提供
委員⑪	近隣施設のオープン化	不審者等の減少
	コンビニ等の売店	人の利用が多いことで安心になる
	運動場の人工芝	子どもたちのケガ減少
委員⑫	屋外での大きい屋根のあるスペース	日陰で遊べる環境
	学校周辺の安全整備	学校周辺での危険回避

2) 個人意見

a) グループ内からの意見

委員	発表を聞いてのメモ
委員⑨	獣害対策
委員⑩	オープンな空間 外での交流、暑さ対策しながら 美化センター前交差点に信号必要 天啓施設のオープン化（不審者）、コンビニ（学校の外） 人が多くなると安心か オープンな空間、クローズな空間それぞれ大事 引き続き図書館を充実させてほしい、各教室から行きやすい場所に
委員⑪	鳥獣害
委員⑫	獣害対策

b) 他グループからの意見

委員	発表を聞いてのメモ
委員④	運動場完全人工芝 けが予防 体育館エアコン設置 暑さ対策(着替え、シャワー、ミスト、プールは民間へ) 屋内外遊具 子どもにとって必要な身体作り オープン空間 グループ交流、異学年交流、地域学習 クローズド空間 クールダウン、集中 図書室 オープン・クローズド両立
委員②	校外 明るく、コンビニ設置 校内 運動場を芝生、東屋等を作って暑さ対策 体育館 エアコン オープン・クローズスペース作る 暑さ対策、ミスト・着替え、日陰スペース、動物対策、遮熱・断熱
委員③	校外 天啓回りの改善、猿等対策 体育館 エアコン設置、ミスト 東屋 暑さ対策 図書館への導線 オープンなスペース
委員⑤	保健室の充実 地元の人も加わって子どもと話しできる＝活用 図書室 すぐ行ける、話せる
委員⑥	校内芝、体育館エアコン、遊具設置、オープン・クローズスペース(図書館でつなぐ)、体育館エアコン大事、大きな体育館
委員⑦	天啓周辺が暗い 芝の運動場 体育館の冷房化 運動場の影(暑さ対策)
委員⑧	空調、影、内外で 夏は運動場×なので体育館を大きく

(4) 近藤准教授の講評

- ・ スペース=place になる⇒可変性がある (ICT 技術の向上にも対応) (A グループ)
- ・ 子どもたち (大人も) が自らの意思で選んで使える場所 (空間) ⇒創れる空間 (A グループ)
- ・ この部屋はこの機能、という 1 対 1 で考えない (A グループ)
- ・ 子ども、教員の心をいやす空間 (A グループ)
- ・ 新しい展示の形 (体験型、ふれあい型、ゲーム型(自ら探す)) (B グループ)
- ・ 地域の考え方、多気町はもちろんコミュニティに関わる対象(海外含む) (B グループ)
- ・ 地域⇒外から小学校を訪れる (訪れたくなる、訪れなければならない) 必要性 (B グループ)